2026 年 2 月 3 日

報道関係各位

京都産業大学　広報部

川とともに生きる京都丹波の“鮎に息づく暮らし”
現代社会学部の学生の視点で記録・編集した冊子が完成

京都産業大学　現代社会学部　鈴木　康久ゼミ（専門：水文化）は、「水がむすび、新たな価値を生み出す社会」をテーマに活動しています。4年次生のゼミ生9人が、京都府南丹広域振興局と連携し、京都丹波地域で脈々と受け継がれる「鮎と人の暮らし」を学生の視点で記録・編集した冊子『今まで知らなかった京都丹波の鮎と暮らす』を制作しました。学生は現地取材を重ね、人・自然・仕事が織りなす地域の物語を写真とインタビューで丁寧に可視化しました。京都丹波の地域資源を若い世代が再発見し、関係人口の創出へつなげる取り組みです。ぜひ取材いただき、広くご紹介くださいますよう、よろしくお願い申し上げます。

【本件のポイント】

・鈴木ゼミは、水文化を通じた地域連携と環境学習に取り組んでおり、2024 年度より京都府南丹広域振興局等と連携し、鮎の魅力や地域資源としての可能性を SNS などを通じて発信しています。

・本冊子は料理旅館の若女将や料理人、専属釣り師、漁協の担い手など、鮎とともに生きる人々の日々の営みに寄り添い、その軌跡を通して、鮎の放流や鳥害対策、産卵床づくりといった見えにくい努力から、炭火で鮎を焼き上げる技術や、器選び・盛り付けの工夫、家族で楽しむ体験の場まで、川を守る仕事から鮎を味わう食文化、もてなしなどの体験へと広がる“鮎をめぐる文化の循環”を可視化しました。

・冊子は「フィッシングショーOSAKA2026」（2026年2月7日・8日／インテックス大阪）会場内の京都府内水面漁業協同組合連合会のブースでも配布されます。

『今まで知らなかった京都丹波の鮎と暮らす』

- A4 サイズ　フルカラー12 ページ
- 2,000 部製作
- 2026 年 2 月 7 日（土）より配布
  南丹管内の道の駅、鮎に関わる店舗など
  京都府南丹広域振興局 Web サイト上でも公開
  （https://www.pref.kyoto.jp/n-no-kikaku/news/ayu20250203.html）

制作：　京都産業大学現代社会学部　鈴木ゼミ
　　京都府南丹広域振興局

本件に関するお問い合わせ先

取材について：京都産業大学　広報部　　TEL:075-705-1411